



すてっぷあっぷ



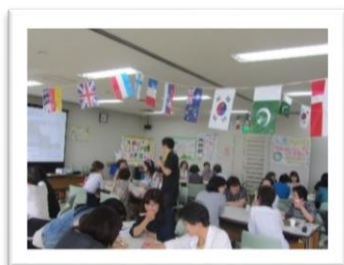
裾野市男女共同参画推進市民委員会では、お互いに尊重し合い、老若男女関係なく社会参加ができる男女共同参画社会の実現に向けて活動をしています。平成29年度は、任期1年目でまずは男女共同参画という言葉に慣れることからスタートしました。また、男女共同参画の視点からの「防災」をテーマに掲げ、男女共同参画の推進に取り組みました。この「すてっぷあっぷ」では、市民委員の1年間の主な活動を紹介します。

「みんなで話そう！女性にやさしい避難所ライフ」を受講しました

連続8回講座「みんなで話そう！女性にやさしい避難所ライフ」（市危機管理課主催）では、自分と家族を守る防災女子カアップと9月3日の県総合防災会場にモデル避難所を展示することを目的に参加者31人で学び、話し合い、作り、発表することを行いました。

学びでは、①避難所はとりあえずではなく、やむを得ず行くところ②備蓄よりケガをしないための安全対策が第一③防災力は生活力、日頃の習慣で身につける。話し合いでは、「こんなことに困るのでは」「こうしたら解決できるのでは」と意見を出し合い、防災訓練でモデル避難所を作り展示しました。

出来た避難所は、男女トイレにそれぞれ紙おむつや下着を置いたり、授乳スペースを設けたりと女性らしい細やかな配慮がされ、女性だけでなく高齢者、障害者やその家族、そして男性にもやさしい避難所になりました。避難所運営において女性の声に耳を傾け、男女を問わず出来ることをするような避難所が講座参加者の希望するものです。（柏木）



「地域の防災女子カパワーアップ講座」を受講しました

「まちを守るのは私。地域の防災女子カパワーアップ講座」（あざれあ主催）を、11月12日と19日の2回にわたり受講してきました。

地域の特性を踏まえた防災講座、男女共同参画から考える避難所運営、防災食レシピの実践など多彩なプログラムが用意されていました。

なかでも避難所運営を男女共同参画から考えるプログラムが印象的でした。ふだんは意識していませんが、実際に被災した場合、男性のリーダーを無意識のうちに想定しているのではないのでしょうか。そのため、女性、

子供、病気を抱えた人などはなかなか要望を伝えるのが難しいです。多様なニーズを抱えた人々を臨機応変にグループ分けして、制限のある避難所をどのように運営していくのか、二次的な災害に合わせないようにどのように配慮するのか、知恵の絞りどころでした。「女性も責任者になることを躊躇しないで！」という言葉が今も心に残っています。（坂田）



南小・東小で職業講話を開催しました

10歳になる小学4年生が1/2成人式を迎えるにあたり、将来の仕事について考えるお手伝いとして職業講話を開催しました。3年目を迎えた今年度は、男性保育士（市内正規職員3名が在籍）と女性消防士（市内1名が在籍）のお二人を講師としてお招きしました。



講師の方々も子どもの頃から今の職業を夢見ていたわけではなく、学生時代のふとした事をきっかけに今の仕事を目指し、夢を実現させたこと、また仕事でのやりがい等について話してくださいました。子どもたちからは「夢に向かって頑張りたい」「努力は無駄ではない事が分かった」等の感想が寄せられました。

職場ではトイレや更衣室が男女共用である等、まだまだハード面が追いついていない所もある様ですが、今の子どもたちが就職する頃にはそのような問題も改善されている事を市民委員として願います。（木邨）

災害調理教室をサポートしました

「女性目線の避難所ライフ」や「地域の防災女子カパワーアップ講座」を受講した委員を中心として講座での学びを活かし、12月17日に小学生を対象にした災害調理教室（南児童館主催）のサポートをしました。

「これ美味しいね」自分で皮をむいて刻んでビニール袋に入れた具材を湯せんして作ったカレー。同じく湯せんして作ったご飯。それらを盛るのは、これまた自分で作ったお皿とスプーン。



何もかもが初めての経験で作ったカレーライス。とても災害食とは思えぬ味に驚いていた参加者たちでした。そして、スナック菓子を加工して味付けして作ったポテトサラダ。いろいろな味のポテトサラダに「美味しいね」「この味が一番好き」などみんな時間を忘れて災害調理に取り組んでいました。

この経験を活かして有事の際も食に困らないように心掛けてもらえればと思った時間でした。（大山）

会長からひとこと（会長 三ツ石純子）

昨年度までの「つながり」を引き継いで事業を進めていながら、29年度・30年度は、男女共同参画の視点からの「防災」を意識した活動を中心に取り組みを開始しました。市民委員会としての活動はもちろん、市民委員ひとりひとりが日々の生活の中でも「防災」を意識して地域活動にも参画でき、近くにいる人たちと協力して乗り越える、そのプロセスに幸せを感じる事ができる、実りある1年だったと思います。

また、「共感の連鎖」が意識や社会を変えていく第一歩だと実感できた1年でした。来年度も事務局の支援のもと、ひとりひとりが主体となり活動していきたいと思っています。

編集／裾野市男女共同参画推進市民委員会

発行／裾野市生涯学習課市民協働室（裾野市深良435番地 TEL992-3800）

